史学・文化財学科創立六〇周年記念講演

史学科・文化財学科誕生物語 ― 博物館と共に

飯沼賢司　特任教授（前学長）

史学・文化財学科の六〇年と国際学術交流 ― 日仏共同研究を中心に ―

山本晴樹　名誉教授

飯沼賢司 特任教授（前学長）
史学・文化財学科創立 60 周年記念講演

山本晴樹 名誉教授
史学・文化財学科創立 60 周年記念講演

講演会

史学研究会大会　史学・文化財学科創立六〇周年記念講演

▼記念講演
飯沼賢司先生（特任教授、前学長）
山本晴樹先生（名誉教授）
▼司会
宮崎聖明先生（教授）

（於 三二号館五〇〇番教室
二〇二三年一一月一一日　一三時～一六時二〇分）

司会　定刻になりましたので、ただいまより二〇二三年度別府大学「史学研究会大会　史学・文化財学科創立六〇周年記念講演」を開始いたします。本日、司会を務めます史学・文化財学科教員の宮崎聖明と申します。本日はよろしくお願いいたします。

開会に際しまして、開会の辞を史学研究会会長、白峰先生より頂戴したく思います。よろしくお願いいたします。

白峰　本日はお忙しい中をお集まりいただきまして、ありがとうございます。ご多忙の中、飯沼先生、山本先生にご講演を賜りますことを本当に感謝申し上げます。今回、学科創立六〇周年ということでございまして、ちょうど一〇年前、学科創立五〇周年のときに、『史学論叢』四四号を私が編集いたしまして、そのときに史学研究会会長の山本先生にご無理申しまして巻頭のお言葉を頂きました。そのとき「史学科・史学研究会の五十年」というタイトルで、山本先生にご執筆いただきまして、サブタイトルが「原点としての「別府史学」」という原稿を頂戴いたしました。

その御原稿を拝読しますと、ちょうど山本先生が赴任したときに、既に勤続三〇年近くでいらっしゃった賀川先生が山本先生に、「君、三〇年なんてあっという間だよ」と言われたということで、そうした時間の流れなのかなということで、そういう印象を受けました。

山本先生はそのときに書かれた中で、『史学論叢』の創刊号の賀川先生の巻頭辞を引用されていました。それを読みますと、「別府大学文学部に史学科が設立せられたのは昭和三八年四月で、その設立の意義は地方史研究の発達に寄与することはもちろんであるが、そのような状態から脱出して、謙虚に世界史的史実を究め、

そこから人類文化に必要な要素を正しく指摘しようとすることにある。今日大分県の一地方史ではなく、大分県に在住する歴史学者の精鋭が中心となって、眼を世界史の広い範囲に見開き、歴史学、考古学、民俗学などの立場から科学的真実の追究をめざして、研究誌「史学論叢」を刊行することになった。」と賀川先生は記されています。このようなその後の五〇年先、六〇年先の流れを正確に読み取ったかのような、洞察の深いお言葉を見ますと、賀川先生のすごさを改めて感じております。

以上、私の拙いごあいさつになりますが、これから飯沼先生、それから山本先生にご講演いただきます。ご講演の内容を両先生のご快諾を頂きまして、『史学論叢』の次号に講演録として掲載します。この講演録は、いわゆるアーカイブとして後世に残していきたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

それではこれで開会の辞を終わりたいと思います。

司会

白峰先生、ありがとうございました。

続きまして、記念講演に移りたいと思います。本日はお二人の先生にご講演をお願いしておりますが、はじめに飯沼先生にご講演いただきます。飯沼先生、準備をよろしくお願いいたします。

準備の間に私から飯沼先生のご紹介を申し上げます。飯沼賢司先生は日本中世史、環境歴史学をご専門とされ、一九九三年に別府大学文学部史学科に着任され、以後、本学における教育研究活動にご尽力いただき、また二〇一九年度から二〇二一年度には本学の学長を務められました。

現在は特任教授として本学で教鞭をおとりいただくとともに、先日、大分合同新聞文化賞を受賞されました。本日は事前に頂戴していたタイトルとは少し変わっていまして、お手元の資料にあります「史学科・文化財学科誕生物語―博物館と共に」というタイトルでご講演をいただきます。

それでは飯沼先生、よろしくお願いいたします。